

28. 波佐見陶石と三股オパール

| | |
|-----|------------------------|
| 地域 | 東彼杵郡波佐見町内海—永尾—三股—中尾—内海 |
| 交通 | 西肥バス 川棚より内海行 |
| 地形図 | 早岐 (1/50,000) |

波佐見付近は良質の陶石が得られることから陶磁器の産地として栄えた。この陶石は、流紋岩が、その流出後に噴出した熱水のため変質したものである。

流紋岩が流出した頃地表に現われていたのは第三紀の堆積岩であって、図の①付近や三股付近にその一部をみることができる。流紋岩はこの堆積岩を貫いて流出したのである。

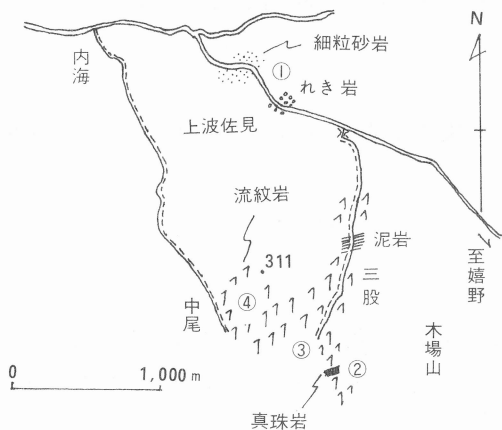
②は豊玉工業三股採石場でオパールを産する。母岩は真珠岩（松脂岩）であって、この中に多数含まれる3～20cmのノジュールの中にオパールがはいっている。真珠岩体は幅約10mの岩脈状で松脂光沢がある。真珠岩の周辺には流紋岩がみられる。オパールの良質のものは透明で青や紅の変彩が美しい。

③は岩尾陶磁器の三股陶石採掘場で、まっ白で軟かく、良く陶石化している。一部の弱変質部には鉛直で走向N60°Eの流理がみられる。

④はかつての白岳山陶石採掘場であるが、現在は質がよくなく採掘していない。流紋岩の変質が弱い部分は流理が明らかであって、淡く紫を帯びる石基には小さな六角板状の黒雲母の斑晶がみられる。

中尾の里は戸毎に陶器を焼く窯の煙突が立ち、軒先には陶土より成型されたばかりの黄白色の陶器が日に干されていて趣が深い。

(堀口承明)



三股付近のルートマップ

虹色のオパール

やわらかく赤黄緑青に輝くオパールは10月の誕生石として広く愛されている宝石である。オパールはたんぱく石といって水にとけた珪酸が沈殿してできたものであるが、不思議に多彩な輝きをもっている。たんぱく石の中にある細かいヒビによって光が干渉して虹色をだすのであるが、この色変わりのする輝きをファイア（火）と呼んでいる。そのヒビの具合で同じオパールであってもさまざまな色があらわれるために、ひとつひとつ異なった模様と輝きをもつのである。

世界的に有名なオパールの産地は、メキシコとオーストラリアである。オーストラリアの系統のものは青と緑が主体である。メキシコのものには赤からオレンジの火たんぱく石がよく知られているが他に青メキシコオパールや、最高級とされている濃い緑と青とで玉虫のような輝きをもつブラックオパールなどがある。